

レタスのネキリムシ類に対して昆虫寄生性線虫 *Steinernema carpocapsae* を利用した防除法について検討した。

1. カブラヤガ幼虫(約 2 頭/m²)に対して *Steinernema carpocapsae* を畝上に 10⁶ 頭/1.5?/m² 灌注施用してフィルムマルチをし、3 日後に植付け穴をあけてレタスを定植することにより、被害を完全に防止できた。
2. カブラヤガ幼虫(約 2 頭/m²)に対して *Steinernema carpocapsae* を畝上に 2.5×10⁵ 頭/0.5?/m² 灌注施用してフィルムマルチをし、3 日後に植付け穴をあけてレタスを定植した場合、被害の防止効果は不安定であった。
3. 自然発生したネキリムシ類(甚発生)に対して *Steinernema carpocapsae* を畝上に 10⁵ 頭/1.5?/m² 灌注施用してフィルムマルチをし、3 日後に植付け穴をあけてレタスを定植することにより、被害株率を無処理の約 2 割に抑制できた。

キーワード：昆虫寄生性線虫, *Steinernema carpocapsae*, 生物的防除, ネキリムシ類, レタス